

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について

郡山市教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査内容

① 教科に関する調査：() 内は問題数

- 小学校：国語(全 14 問)、算数(全 16 問)、理科(全 17 問)
- 中学校：国語(全 14 問)、数学(全 14 問)、理科(全 21 問)

② 質問紙調査

- 児童生徒質問紙・・・児童生徒に対する調査(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査)
- 学校質問紙・・・学校に対する調査(指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査)

(3) 調査対象

- ① 小学校(義務教育学校前期課程を含む)：51校(6年生 2,477名)
- ② 中学校(義務教育学校後期課程を含む)：27校(3年生 2,444名)

2 調査結果の公表

- 各教科における平均正答率(各教科の問題数に対する正答数の割合)
- 各教科における結果と課題及び改善策
- 質問紙調査の結果と改善策(本市の特徴を表す項目を抜粋)

学校においては、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等の育成のほか、豊かな心や健やかな体の育成にも取り組んでおり、大きな成果をあげているところです。本調査の結果は、特定の教科の一部であり、学校における教育活動の一側面を表したものではありませんが、上記調査目的をふまえ、これからも保護者や市民の皆様と連携し本市学校教育の一層の充実に努めてまいります。

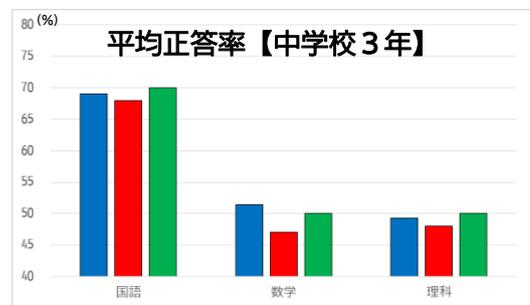
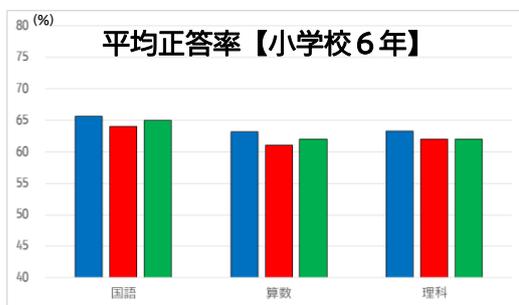
3 調査結果

(1) 結果概要

今回の調査における郡山市児童生徒の平均正答率は、以下のような結果となりました。

- 小学校6年 … 国語が全国平均と同程度で、算数と理科は全国平均をやや下回っています。
- 中学校3年 … 国語が全国平均をやや上回っており、数学は全国平均をやや下回っています。理科は全国平均と同程度です。

(2) 各教科における平均正答率(各教科の問題数に対する正答数の割合)



教科	国語	算数	理科
問題数	14	16	17
全国	65.6%	63.2%	63.3%
福島県	64%	61%	62%
郡山市	65%	62%	62%

教科	国語	数学	理科
問題数	14	14	21
全国	69.0%	51.4%	49.3%
福島県	68%	47%	48%
郡山市	70%	50%	50%

(3) 各教科における結果と課題及び改善策

① 本市における各教科の結果と課題、改善策

【小学校6年】

	結果	課題	改善策
国語	<p>平均正答率は、全国平均と同程度です。</p> <p>「我が国の言語文化に関する事項」の領域は全国平均を3.6ポイント上回っています。</p> <p>「話すこと・聞くこと」の領域は3.0ポイント、「書くこと」の領域は1.4ポイント、「読むこと」の領域は3.8ポイント全国平均を下回っています。</p>	<p>「読むこと」については、登場人物の相互関係について、描写を基に捉えることに課題があります。</p> <p>また、「話すこと・聞くこと」について、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに課題があります。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>*問題番号・1四</p> <p>・2一(2)</p> <p>・3二</p> </div>	<p>文学的文章を読む際には、登場人物の相互関係や心情などについて文章全体を通して複数の描写を基に捉えることができるように指導します。根拠となる描写を複数抜き出したり、解釈に係る根拠と理由を分けて、友達と共通点や相違点を比較したりする多様な解釈等に触れる学習活動を多く設定します。</p> <p>また、自分の立場や意図を明確にし、友達の考えとの共通点や相違点を比較しながら話し合う場を多く設定します。</p> <p>併せて、「〇〇について触れること」「〇〇という言葉を使うこと」など、条件に合わせて書く場面を設けます。</p>
算数	<p>平均正答率は、全国平均をやや下回っています。</p> <p>すべての領域において、全国平均を下回っており、特に「データの活用」の領域が全国平均を2.6ポイント下回っています。</p>	<p>「図形」の領域では、正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察して、言葉と数を用いて作図の方法を記述することに課題があります。</p> <p>「データの活用」の領域では、分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察することに課題があります。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>*問題番号・4(1)</p> <p>・3(2)</p> </div>	<p>図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質を基に作図の仕方の手順を考えたり、実際にその手順に従って作図したりする活動を多く設定します。</p> <p>また、日常生活の事象について、必要なデータを収集・分類・整理し、そのデータをまとめた表やグラフからデータの特徴や傾向を読み取り、数量の関係について式に表した結果を、友達と比較検討する活動を多く設定します。</p>
理科	<p>平均正答率は、全国平均をやや下回っています。</p> <p>すべての領域において、全国平均を下回っており、特に「粒子」を柱にする領域は2.8ポイント、「地球」を柱とする領域は1.3ポイント全国平均を下回っています。</p>	<p>観察や実験に関する技能を身に付けることに課題があります。</p> <p>自然の事物・現象や観察、実験から得た情報を基に、分析して解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述すること課題があります。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>*問題番号・2(1)</p> <p>・2(4)</p> <p>・3(1)</p> <p>・4(3)</p> </div>	<p>観察や実験では、器具の名称や使い方を明確にして、実験方法を説明したり、実験結果をノートに記述したりするようにします。</p> <p>自然の事物・現象や観察、実験から得た情報を基に、差異点や共通点、規則性などに着目させて、自分の考えを記述したり、話し合ったりする活動を設定します。また、友達の考え、気付きの根拠を実験結果等から考える活動を設定します。</p>

【中学校3年】

	結 果	課 題	改 善 策
国語	<p>平均正答率は、全国平均と同程度です。</p> <p>「話すこと・聞くこと」の領域は0.8ポイント、「書くこと」の領域は5.1ポイント、「読むこと」の領域は0.2ポイント全国平均を上回っています。</p>	<p>「話すこと・聞くこと」については、相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することに課題があります。</p> <p>また、「読むこと」については、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることに課題があります。</p> <p>*問題番号・<input type="text" value="1"/>一 ・<input type="text" value="3"/>三</p>	<p>自分の考えを正しく、より効果的に伝えるために、スピーチ原稿や文章について、友達と互いの原稿等を共有・比較しながら推敲する学習活動を多く設定します。</p> <p>また、文学的文章を読む際には、場面の展開については、複数の描写を基に捉えることができるように指導します。さらに、場面の展開や心情の変化について、解釈と理由だけでなく、根拠となる複数の描写について友達と比較・検討する学習活動を多く設定します。</p>
数学	<p>平均正答率は、全国平均を下回っています。</p> <p>すべての領域において、全国平均を下回っており、「数と式」の領域においては1.5ポイント、「図形」「関数」「データの活用」の領域においては1.9ポイント全国平均を下回っています。</p> <p>14問中10問で無回答率が全国平均を上回っています。</p>	<p>「関数」の領域では、事象を数学的に表やグラフから解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題があります。</p> <p>「数と式」の領域では、結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見出し、説明することに課題があります。</p> <p>*問題番号・<input type="text" value="4"/>四 ・<input type="text" value="6"/>六 (3) ・<input type="text" value="8"/>八 (2)</p>	<p>関数の学習では、日常生活などに活用する場面を設定することや、表、グラフ、式などを用いて、着目すべき特徴を見出す活動を取り入れ、数量関係を数学的に説明する機会を多く設定します。</p> <p>数に関する事象を考察する場面では、具体的な数から成り立つと予想した事柄について、根拠を基にしながら、文字や文字式が何を表しているかを明らかにして説明する活動を通して、友達と比較・検討する機会を多く設定します。</p>
理科	<p>平均正答率は、全国平均と同程度です。</p> <p>「エネルギー」の領域は0.9ポイント、「粒子」の領域は1.1ポイント、「生命」の領域は0.2ポイント全国平均を上回っています。</p> <p>「地球」の領域は1.4ポイント全国平均を下回っています。</p>	<p>「地球」の領域では、時間的・空間的な見方を働かせ、観察結果や資料を基に推論することに課題があります。</p> <p>身に付けた知識や技能を活用して観察、実験などの結果を分析し解釈することに課題があります。</p> <p>*問題番号・<input type="text" value="2"/>二 (1) ・<input type="text" value="2"/>二 (2) ・<input type="text" value="6"/>六 (3) ・<input type="text" value="7"/>七 (1)</p>	<p>時間的・空間的な見方を働かせて自然の事物・現象を科学的に探究する際、モデル実験やタブレット端末等を活用します。</p> <p>身に付けた知識及び技能と日常での自然の事物・現象を関連付け、自分と友達の考えや根拠を比較・検討するなどの学習活動を多く設定します。</p>

(4) 質問紙調査の結果と改善策

① 児童生徒質問紙

ア 「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計が80%以上、または全国と比べて割合が上回っているなど、成果が見られた主な項目

質問事項	郡山小	全国小	郡山中	全国中
国語の勉強は大切だと思いますか	94.6	93.3	94.5	93.2
算数の勉強は大切だと思いますか	93.8	94.2	88.8	86.6
理科の勉強は大切だと思いますか	88.6	86.5	81.3	76.8
学校に行くのは楽しいと思いますか	84.7	85.4	82.7	82.9
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.3	96.8	96.8	96.4
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.0	95.1	95.6	95.0
自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか	90.1	87.2	86.7	86.6
人が困っているときは、進んで助けていますか	89.5	88.9	90.1	88.4
朝食を毎日食べていますか	94.9	94.4	92.7	91.9
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	92.4	90.4	93.4	92.2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	86.5	81.5	81.6	79.9

イ 「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計が50%以下、または全国と比べて割合が下回っているなど、課題が見られた主な項目

質問事項	郡山小	全国小	郡山中	全国中
自分には、よいところがあると思いますか	76.1	79.3	74.4	78.5
今住んでいる地域の行事に参加していますか	51.2	52.7	32.3	40.0
地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか（習い事の先生は除く）	29.0	30.6	16.0	21.1
新聞を読んでいますか	25.2	26.9	20.5	20.9

ウ 分析

【「よさ」が見られたところ】

- 教科の学習が大切だと思っている児童生徒が多く、楽しく学校に通い、前向きな考えをもっている。
- いじめはどんな理由があっても許されないと思っている児童生徒が多く、道徳的心情が育っている。
- 朝食の摂取、決まった時刻の起床・就寝をしている児童生徒が多く、基本的な生活習慣が身に付いている。

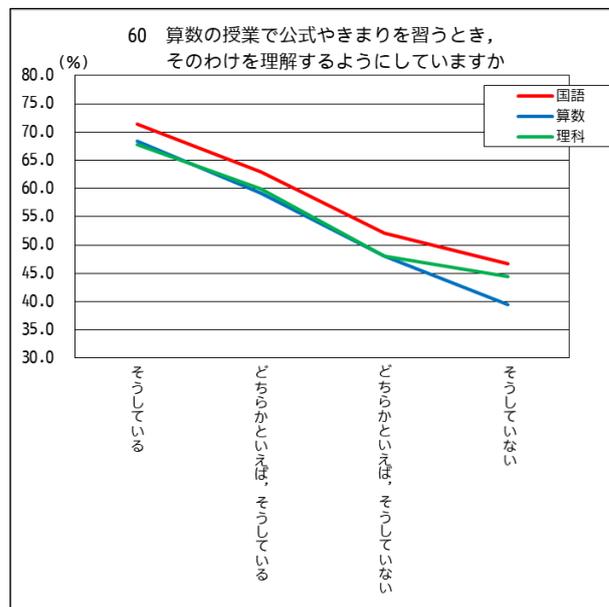
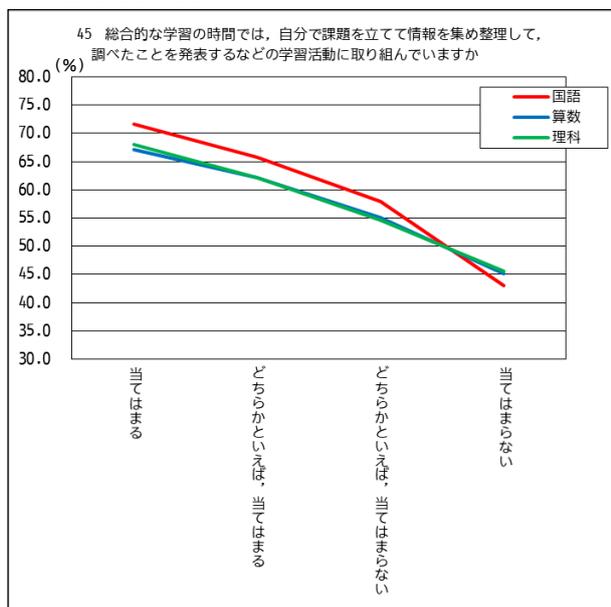
【「課題」が見られたところ】

- 一人一人のよさや成功体験を認めるなどして、自己肯定感を育てていく必要がある。
- 学校と家庭・地域との連携を図りながら指導を充実させる必要がある。

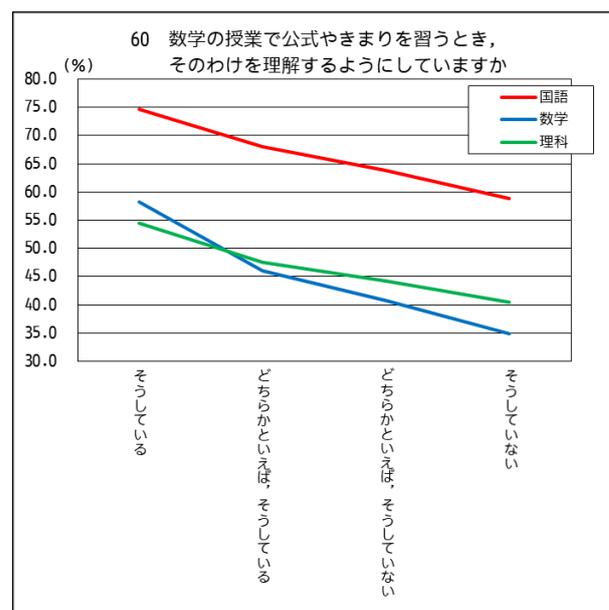
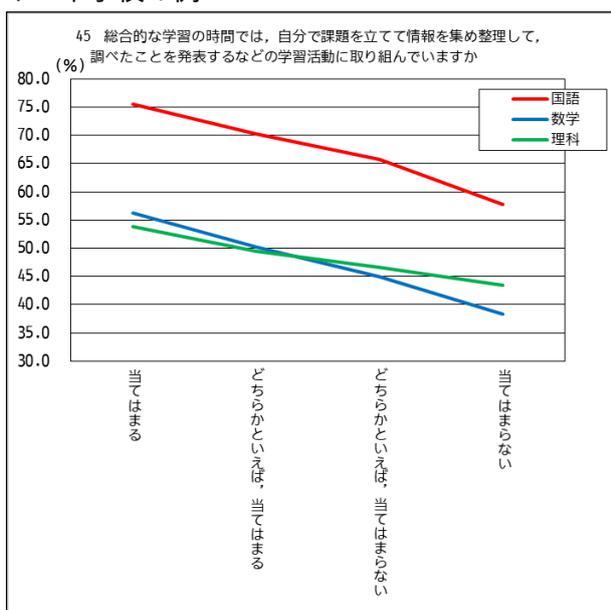
② 児童生徒質問紙と教科に関する調査結果のクロス集計

※ 児童生徒質問紙の回答状況と各教科の平均正答率のクロス集計を実施した。縦軸が平均正答率を表している。

ア 小学校の例



イ 中学校の例



ウ 分析

結果だけでなく根拠や過程について考えている児童生徒や探究的な学習に取り組んでいる児童生徒ほど平均正答率が高いことから、以下のような学習活動を推進していきます。

- 自分の考えの根拠等を友達と比べて考える学習活動
- 自分で課題を見つけて調べたことを発表する探究的な学習活動

③ 学校質問紙

ア 「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計が90%を上回っている主な項目

質 問 事 項	郡山小	全国小	郡山中	全国中
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしましたか	100.0	97.0	100.0	96.6
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか	100.0	98.7	96.3	98.1
調査対象学年の児童生徒に対して、特別の教科 道徳において、児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか	98.1	96.9	100.0	97.7
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか	96.1	96.8	100.0	97.1
調査対象学年の児童生徒に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っていますか	90.1	92.6	100.0	91.7
I C Tを活用した校務の効率化（事務の軽減）に取り組んでいますか	96.1	95.0	100.0	94.3

イ 「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計について全国平均との差が大きい主な項目

質 問 事 項	郡山小	全国小	郡山中	全国中
前年度までに、近隣等の小中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	82.4	52.7	81.5	61.1
令和3年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小中学校と成果や課題を共有しましたか	72.5	44.5	77.8	47.6
前年度までに、近隣等の小中学校と、授業研究を行うなど、合同で研修を行いましたか	66.7	48.2	74.0	58.0

ウ 分析

児童生徒のよさや可能性を積極的に認めている学校や児童生徒に話し合わせることをとおして思考を深めている学校が多いこと、小学校と中学校の連携による取組について全国平均を大きく上回っていることから、今後も、以下のような取組を重視していきます。

- 児童生徒一人一人のよさを積極的に認め、学習の意義や価値を実感できる評価
- 児童生徒に、答えだけでなく根拠や理由等について様々な考えを比較させる、話し合いをとおした学習
- I C Tを活用して校務の効率化を図った働き方改革
- 小中連携による取組による、9年間の学びの充実

* 文部科学省が公表している資料については、国立教育政策研究所ウェブページをご覧ください。

「令和4年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について」

(URL <https://www.nier.go.jp/22chousa/22chousa.htm>)

「令和4年度 全国学力・学習状況調査 報告書・調査結果資料」

(URL <https://www.nier.go.jp/22chousakekkahoukoku/>)

「令和4年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会」

(URL <https://www.nier.go.jp/kaihatsu/setsumeikai/r04setsumeikai/index.html>)

【個人票のイメージ】

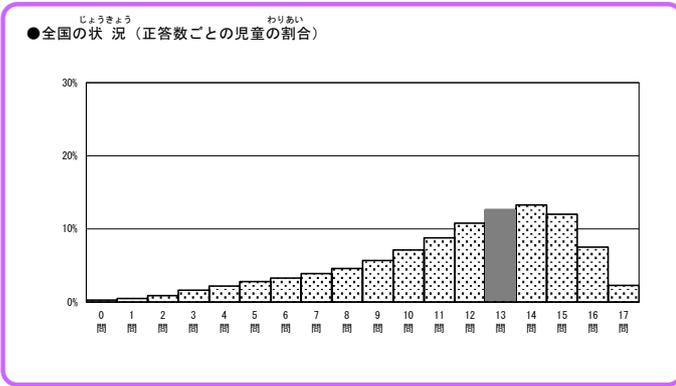
令和4年度全国学力・学習状況調査【小学校】調査結果

学校名	個人番号	組	氏名
□□□□□立◇◇◇◇◇◇◇◇小学校	1 0 0 0 0 0 1	1	

理科

正答数	13 / 17問
全国の平均正答数	11.5問

学習指導要領の領域 ※1	正答数	全国の平均正答数
「エネルギー」を柱とする領域	3 / 4問	2.2 / 4問
「粒子」を柱とする領域	4 / 5問	3.2 / 5問
「生命」を柱とする領域	4 / 5問	3.9 / 5問
「地球」を柱とする領域	4 / 5問	3.5 / 5問



問題形式	正答数	全国の平均正答数
選択式	8 / 11問	7.8 / 11問
短答式	3 / 3問	2.1 / 3問
記述式	2 / 3問	1.6 / 3問

● 出題内容
理科では、「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」に関する内容について出題しています。

問題番号	問題の内容	結果	全国の正答率 (%)	学習学年 ※2	学習指導要領の領域				問題形式
					エネルギー	粒子	生命	地球	
1	(1) 見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ	○	94.1	3			★		選択
	(2) 自分の観察の記録と新たに追加された他者の観察の記録を基に、問題に対するまとめを見直して書く	○	73.9	3			★		記述
	(3) 昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ	○	75.4	3			★		選択
	(4) 資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ物の特徴から二次元の表のどこに当てはまるのかを選ぶ	○	80.3	3			★		選択
	(5) 育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見いだして選ぶ	×	69.1	3			★		選択
2	(1) 一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く	○	72.2	4		★			短答
	(2) 水50mLをはかり取る際に、メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ	○	73.8	4		★			選択
	(3) 水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見だし、問題に対するまとめを選ぶ	×	69.7	4・5		★			選択
	(4) 凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く	○	42.8	4・5		★			記述
3	(1) 光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ	○	29.9	3	★				選択
	(2) 実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ	○	79.7	3	★				選択
	(3) 鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く	○	72.3	3	★			★	短答
	(4) 問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く	×	40.9	3	★				記述
4	(1) 冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ	○	86.7	4				★	選択
	(2) 夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ	○	71.4	4				★	選択
	(3) 結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものなのかを選ぶ	×	51.2	4				★	選択
	(4) 鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものかを書く	○	66.3	4		★		★	短答

※1 一つの問題が複数の領域に該当することがあるため、領域の問題数の合計は、実際の問題数と一致しない場合があります。

※2 「学習学年」とは、問題に関連する学習指導要領の内容が示されている学年を表したものです。

○：正答、×：誤答、-：無解答